

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	木曾地域のブランドPR事業
事業主体 (連絡先)	木曾広域連合 木曾郡木曾町日義4898-37 (TEL 0264-23-1050)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,348,400円 (うち支援金: 2,582,000円)

事業内容

長野県関係では、この木曾地域を含めて2地域のみが認定されている日本遺産という希少なブランドを、バス会社の協力を得ながら、公共交通である路線バス及び高速バスに日本遺産構成文化財の写真でデザインしたラッピングを施し、走る広告塔として運行することで、木曾地域を訪れた観光客や郡外でラッピングバスを見た人に対して木曾地域をPRし、観光地としての魅力をアップするとともに、まだ認知度が高いとは言えない日本遺産を地域住民にアピールすることで認知度の向上を図った。

PR期間 令和2年9月1日～令和3年3月31日

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

木曾を訪れた観光客へのPRはもとより、木曾地域を通過する観光客、新宿までの経路上でバスを見かけた人等、多くの人に視覚的にPRすることができた。

木曾地域の中でもまだ認知度が低い日本遺産を走る広告塔であるラッピングバスにより広く周知することができた。

その他、新型コロナウイルス感染症によるインバウンドの減少が懸念される中、来年は東京オリンピックを控えており、その取り戻しに貢献することができる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

令和2年6月に木曾地域の日本遺産構成文化財が追加認定(朴葉巻き、旧帝室林野局木曾支局庁舎、藤村記念館)されたこともあり、これらを含めて木曾地域をPRするため、日本遺産を活かした事業展開を検討し、実施していく。

日本遺産ポータルサイトの充実を図る。



【バスラッピング日本遺産PR】

【目標・ねらい】

- ①木曾を訪れた観光客や郡外の人への魅力発信
- ②木曾地域内での日本遺産の認知度の向上
- ③減少したインバウンドの取戻し

※自己評価【B】

【理由】

観光客や地域住民の大勢の目に触れ日本遺産の魅力アップや認知度の向上には貢献できたが、新型コロナウイルス感染症拡大によるインバウンドの減少について先が見通せない状況で、その取り戻しには時間が掛かる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある